

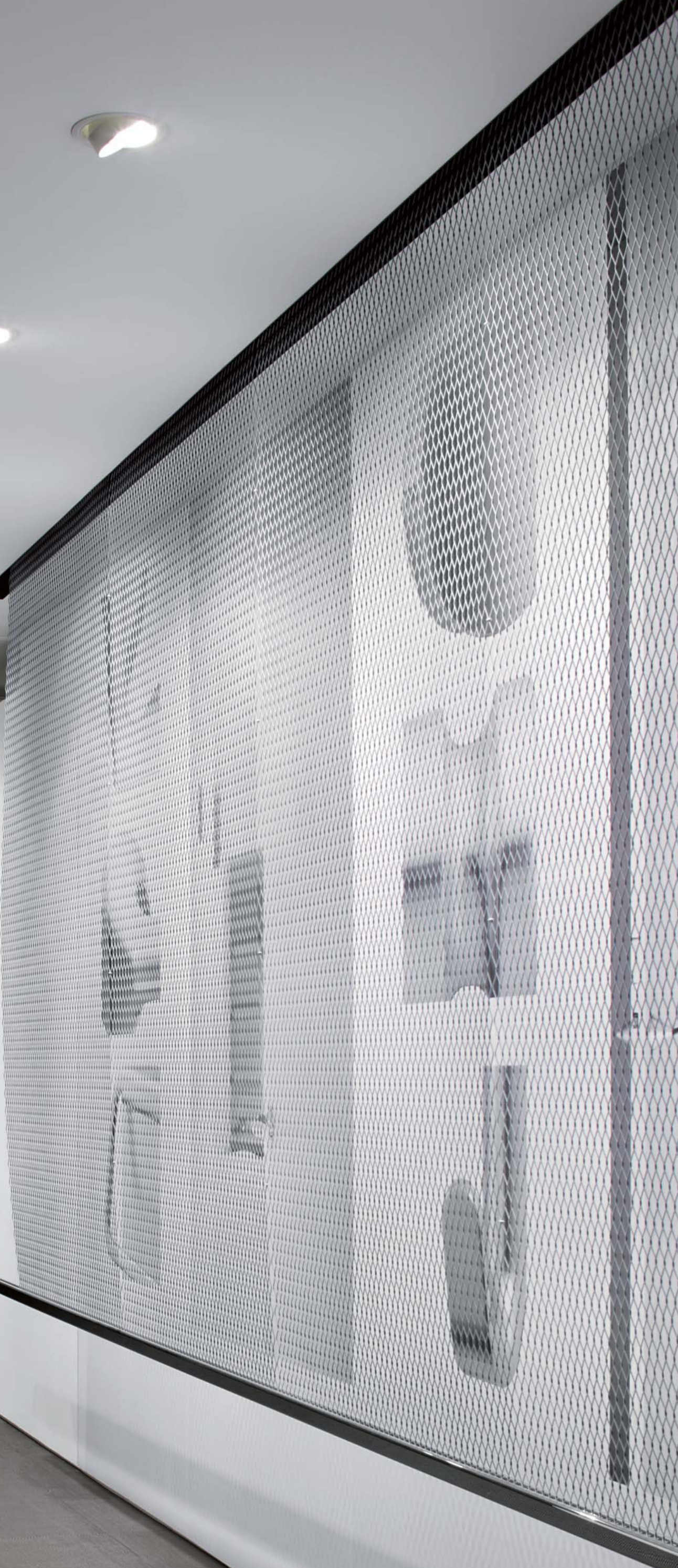
# WEST PRESS 6



Agaho

Professional Haircare Products

99



# DISCUSSION WEST meets 近藤 康夫

「ハードウェアをソフトウェアに変えてやろうと思った」

建築家・梅林克が建築家やデザイナーを訪ね、ディテールに対する考え方や設計手法を聞くシリーズ。第6回となる今回の舞台は、インテリアデザイナー近藤康夫によるWESTの東京ショールームだ。時代とともに自らの設計手法を変え、いまは師匠・倉俣史朗の手法に立ち返りつつあるという近藤。その近藤がキーワードとして掲げるのが「気配」だ。創造の源となったのは、ショールームに陳列されたドアハンドルをはじめとするWESTの製品群。モノを原点に、その質感や気配を伝える空間へと展開されている。では逆に、製品から気配を伝えるには、どうすればよいだろうか。WEST代表取締役の西康雄も交え、WEST東京ショールームのデザイン手法を語りあい、新たなマテリアルのあり方を探った。

**梅林** 近藤さんとは、私が高松伸の弟子だった時代からのお付き合いです。近藤さんのインテリアは建築的と言いますか、形式の中に形式を放り込むような方法を取っていて、他のインテリアデザイナーとは違うと理解していました。新しいWESTのショールームを見ると、以前の近藤さんと同じように形式を持ったデザインでありながら、昔ほど強烈な異物が差し込まれるようなものではなく、だいぶ優しい印象に変わっていると感じました。

**近藤** ものづくりにおいてひとつのやり方を貫く人もいますが、私は変わるんです。独立してから4回ほど変化があったでしょうか。1980年代は建築的にインテリアをつくろうと、内部に巨大な鉄骨を飛ばしたり、トマホークのような異物を置いたりしていました。しかしデザインは、ある時代性を引きずります。建築が10歩くらい前を目指すとする、われわれは3歩前に行くのが良いのです。

**梅林** そうした変化を経て、現在はどのような手法を取られているのでしょうか。

**近藤** 最近私が大事にしているのは「気配」です。このところ五感で感じる、ということが喧伝されていますが、空間において実際に壁を舐めるわけにもいきません。空間においてそうした意味を端的に表す言葉があるとしたら、気配でしょう。言うなれば長谷川等伯の「松林図屏風」から感じられるようなことを、空間で伝えられれば良い。そこで仕掛けたのが、約5mにおよぶアプローチです。以前の東京ショールームも壁に大きなグラフィックがありました。今回はその形式を引き継ぎながら、手前にエキスパンドメタルのスクリーンを下ろしたのです。

**梅林** いわゆるデザイナーを起用したショールームというのは、WESTでは初の試みなんですね。

**西** コンセプトからお任せするのは初めてです。こちらからは以前のショールームで使っていたガラスなどの素材を生かすことと、Agahoの持つ優しさを表現してほしい、ということをお伝えしました。

**近藤** 鍵やドアハンドルというのは、建材の中でもかなりハードな部類に入ります。しかし同時に身近で人が触るものもあり、WESTの製品ではすべての角が取れています。そこで今までと違うショールームにするために、ハードウェアをソフトウェアに変えてやろうと思ったんです。私の仕事で平面的にも立体的にもアールをこれだけ使ったのは初めてでした。極めつけはショールーム中央の2枚の壁。わざと先端を細くしてエッジを立てています。すると壁が、いわゆる空間を間仕切りする壁とは全然違うものに見えてきます。

**梅林** 製品からインスパイアされた空間、ということになるんですね。ドアハンドルのような小さな部品からスペースのあり方につなげる発想法は、私たちにとっては新鮮です。

**近藤** ドアハンドルを展示している扉は、壁から10cm以上離し、扉として強調しています。扉の裏側にテーパーをつけて影が必要以上に出るようにしています。テーブルの天板も同じような操作をしています。すると、白く艶のある皮1枚だけが空間に浮かび上がります。つまり私の師匠である倉俣史朗がやっていたようなことを、私もするようになったのです。

**梅林** 建築でも、細く薄くという潮流がありますが、そうした即物的な薄さではなく、知覚的な薄さの表現ですね。倉俣さんの手法に立ち返ったのは、なぜでしょうか。

**近藤** そういうことをしたらどうか、と、そそのかした人間がいるのです。ほかでもない高松伸です。私が2003年に出した本『AB DESIGN』に寄稿いただいた文章の最後に「近藤康夫が、かつての倉俣史朗のスケールでデザインを試みる方が、はるかに興味深いと言ってよい」としたためられていました。今回は、久しぶりにすべて自分の手の内に入るような規模の仕事ができたことも、楽しかったですね。

**梅林** WESTの製品のやわらかい質感は、カタログ経由ではなかなか伝わりません。その質を伝えるような空間になっていますね。

**近藤** いま、ショールームというあり方自体が鮮度を失っています。かつてのように企業主導の「情報発信基地」ではなく、お客様が情報を収集する場所として、そのあり方が問われているのです。一方的に商品を説明するのではなく、お客様に見て、体験してもらい、その反応を蓄積し、製品開発につなげることが重要と捉えています。

**梅林** サプライヤーサイドにとっての情報収集を意図しているんですね。そうした意味ではどんな工夫をなされましたか？

**近藤** 情報収集のために新しいデザインやメディアがあるのかどうか、という点については疑問もあるので、ここではシンプルに商談のしやすさを狙いました。以前1つだったテーブルを2つに分け、対角線上に離して置くことで、違和感なく2組のお客さんが共存できます。

## マテリアルの「気配」を伝える



### 近藤 康夫

こんどう やすお  
1950 東京生まれ  
1973 東京造形大学造形学部デザイン学科室内建築専攻卒業後、  
三輪正弘環境造形研究所に入社  
1976 クラマタデザイン事務所に入社  
1981 近藤康夫デザイン事務所を設立  
2006 九州大学大学院  
芸術工学研究院 教授



2000竣工 東証アローズ (TSE Arrows)  
撮影: 平井広行

IP.3P.4P 東京オフィスショールーム 設計: 近藤 康夫



## WEST VOICE

「WEST 東京ショールーム」には、お越しただけましたか? 昨年にリニューアルして以来、たいへん好評をいただいております。今回は近藤康夫さんの空間コンセプトである「情報収集のための場所」としてショールームを位置づけ直し、建築設計者、エンドユーザーの方々にとってWESTの商品をより身近に触れていただける空間に仕上がりました。ぜひお運びください。

WEST代表取締役社長 西康雄・談

WEST 東京ショールーム  
東京都港区南青山5-11-15

TEL: 03-3499-9260

営業: 8:30-17:30 土不定休 日・祝日休

梅林 21\_21 DESIGN SIGHT(東京・六本木)で開催される倉俣史朗さんの展覧会「倉俣史朗とエットレ・ソットサス」展(2月2日から5月8日まで)では、近藤さんが会場構成を手がけています。どんな展示になるのでしょうか。

近藤 1980年代の倉俣史朗とエットレ・ソットサスという切り口で、80年代以降亡くなるまでのものが並びます。多くの若い人は実物を見てないので、新鮮に感じるでしょう。特に亡くなる直前の作品群は色気があって、多くの人の心に刺さるはずですよ。

梅林 色気や気配というものは、伝わりにくいようで誰もが無意識に感じ取るものなんですね。

近藤 建築の世界でもいま若手のつくるものは、触感的で、(あまり好きな言葉ではありませんが)感性に訴えかけるような空間へと変わってきています。それが最も端的にあらわれるのがマテリアルです。以前は建材という意味しかなく、それほど重要ではありませんでしたが。

梅林 かつてマテリアルは、形式や理念の後にあるものでしたね。こうした潮流変化を受けて、新しいマテリアルが生まれる可能性があるかもしれません。たとえば多様な意味を1つのプロダクトに込めることもできます。いわゆる工業製品は用途とモノが1対1対応で、プアといえばプアです。そこを変えられる可能性はありますよね。

近藤 桂離宮の引き手はなすびの形をしていましたし、知恩院の落とし金にカッパや亀がついていたりします。魔除けや火除けという意味も込めながら、単純にかわいいという意味も持っています。

梅林 1つのパーツに複数の意味を込めるというのは、日本らしい感性ですね。

21\_21 DESIGN SIGHT 企画展 EXHIBITION

「倉俣史朗とエットレ・ソットサス」展 2011年2月2日(水) - 5月8日(日)

時間: 11:00 - 20:00(入場は19:30まで)

休館日: 火曜日(5月3日は開館)

入場料: 一般¥1,000、大学生¥800、中学生¥500 小学生以下無料

(15名以上は各料金から¥200割引、いずれも消費税込み)

会場: 21\_21 DESIGN SIGHT(東京ミッドタウン・ガーデン内)

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-6 tel. 03-3475-2121

アクセス: 都営地下鉄大江戸線・東京メトロ日比谷線 六本木駅、千代田線 乃木坂駅より徒歩5分

企画: 三宅一生 展覧会ディレクション: 関 康子 企画協力: 倉俣美恵子、バルバラ・ラディーチェ・ソットサス、

石丸隆夫、三保谷友彦、藤塚光政 会場構成: 近藤康夫、五十嵐久枝

主催: 21\_21 DESIGN SIGHT、財団法人 三宅一生デザイン文化財団

## Next

WEST meets 小泉 雅生



アリタノイエ

提供: 小泉アトリエ



### WEST CORPORATION

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM

5-11-15 MINAMI-AOYAMA, MINATOKU, TOKYO, 107-0062 JAPAN.  
TELEPHONE: 03-3499-9260 FACSIMILE: 03-3499-9263

OSAKA OFFICE / SHOW ROOM

4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.  
TELEPHONE: 06-6221-5777 FACSIMILE: 06-6221-5888

### 株式会社ウエスト

東京オフィス/ショールーム

107-0062 東京都港区南青山5丁目11番15号  
TEL: 03-3499-9260 FAX: 03-3499-9263

大阪オフィス/ショールーム

541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目3番22号  
TEL: 06-6221-5777 FAX: 06-6221-5888

### WEST PRESS 6

2011年3月26日発行

Art Direction:

藤脇慎吾

Text:

平塚桂(ぼむ企画)

Photo:

繁田論(Nacása & Partners Inc.)

Edit:

publica